

和泉自治会

1、基本データ

○地区名 和泉地区

○地区人口

545（平成26年3月1日現在）

○面積 332平方キロメートル

○地区の沿革

和泉地区（旧和泉村）は、福井県の東端に位置し岐阜県に境を接し、面積の約3分の2が山林であり、四囲山岳を形成し、その中央を岐阜県境に源を発する九頭竜川が東西に貫流している。また九頭竜川をせきとめた九頭竜ダムを始め、大小複数の人造湖を形成している。



九頭竜ダム湖

人口は昭和40年に5,723人であったが、昭和43年の九頭竜ダム完成や昭和62年の日本亜鉛鉱業中竜鉱山の採掘中止などが影響し平成2年には846人にまで激減した。この人口の絶対数の少なさ、豪雪地帯・山村地域という地理的条件、工業用地条件の欠如による魅力ある職場の少なさ、都市的生活環境整備の立ち遅れ等による若者の不定着により過疎化が進んできた。

このような中、旧和泉村では地域の特性を生かしたむらづくりの理念のもと観光と農林水産等地域産業の連携による内発的地域振興を目指

してきた。特に観光には力を入れ「観光立村」を掲げ、昭和40年代後半より多くの観光施設の整備を行ってきた。「九頭竜国民休養地」や「和泉前坂家族旅行村」、「天狗岩ファミリーパーク」などの保養施設やキャンプ場、また「九頭竜スキー場」も整備してきた。さらに平成に入り民間のスキー場（福井和泉スキー場）がオープン、さらに下山地区では、平成元年に試掘された温泉を利用し「九頭竜保養の里」を整備し、日帰り温泉施設、ホテル、コテージなどのリゾートゾーンを形成してきた。

今年で34回目を迎えた「九頭竜紅葉まつり」は、10月に九頭竜国民休養地を会場として行われ、県内でも有数のイベントとして定着し今年度も2日間で3万8千人の来場者で賑わった。同会場では5月には「九頭竜新緑まつり」も開催され2万7千人の来場者が訪れている。



九頭竜紅葉まつり

交通網も岐阜県側で国道158号線に繋がる東海北陸自動車道が整備され、中京圏からの距離も短縮され「福井県の東の玄関口」と位置付けられるようになった。

和泉地区は中世から穴馬郷と称せられ、南北朝時代から江戸時代を通じて次々と支配者が変わり、天領として明治時代を迎えている。明治22年町村制実施に伴い上穴馬村、下穴馬村に分かれ、その後昭和31年9月30日に合併し

て和泉村となり、さらに昭和34年10月14日に石徹白村の一部を編入した。そして平成の大合併により平成17年11月7日に大野市と合併し現在に至っている。

○実施主体

和泉自治会

それぞれの事業は自治会及び自治会に所属する団体が主体となって実施した。

2、現状と課題

和泉地区は、合併後の8年間にも人口が急激に減少しており、729人(平成17年11月)から548人(平成26年1月)へと△181人(△24.8%)となっている。さらに大野市街地から約30kmの距離があり行政サービス低下への懸念や若者の流出により高齢化が進み地域力・マンパワー不足による地域の衰退、経済情勢の悪化による観光客の減など、当地区の将来への不安が増大している。

合併前は小さな自治体であり、昔から電源開発のダム事業や中竜亜鉛鉱業株式会社の鉱山など大きな税収等の恩恵を受け、決め細かな行政サービスを受けていた。このような状況もあり住民が自ら行動を起こし自らの手で事業を行うという意識が薄く、行政に強く依存している状況であったといえる。

合併を機に、このような状況は一遍し、各種補助金の削減やこれまで無料だった公共水道料金の発生など、少しずつではあるが依存体質から脱却しつつある。

3、事業内容

平成24年度までは、越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクトのみを実施していたが、今年度は3事業を追加した。

1 和泉花木の里事業

①越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト
(花桃育成管理)

主体：越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会

②道端花いっぱい運動

主体：自治会

2 穴馬民踊保存事業

主体：穴馬民踊保存会

3 和泉地区地域づくり計画策定事業

主体：自治会

1-①越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

以前より地区内に、個人で花桃の苗を植樹している方がいたが、ある民放ラジオ局がPRと地域貢献を兼ね、何かしたいということから、地区の方に相談があった。その際に花桃の話が浮上し、企業と地元住民が協力し地域の活性化を目指すべく、花桃の里を作ろうということで話しが進んでいった。

そこで地元の有志を募ることとなったが、個人的にお願いにいくも、なかなか人材が集まらず、自らの手で和泉地域の活性化とコミュニティの形成を図ることを目的とした自治組織「和泉自治会」に話をして賛同を得ることとした。



実行委員会の打合せの様子

和泉自治会の賛同も得て、平成21年11月18日に民間企業と地元住民による自主事業団

体「越前おおの・九頭竜 花桃回廊実行委員会」が、この地域に花桃の植樹・育成事業を図ることにより、観光拠点としての地域づくりに寄与することを目的に発足した。

これらを経て和泉自治会では、平成22年4月27日に長野県上伊那郡阿智村の「花桃の里」への視察研修を実施した。特に月川温泉「野熊の庄 月川」周りの花桃は見事で、多くの観光客が訪れ、イベントも開催されていた。また国道256号線沿いの「花桃街道」にも多くの花桃がみられ、山際や個人宅の庭などにも植栽がみられ、地区全体が花桃で盛り上げようという機運が見受けられた。また、その地区も平成4年にインターチェンジが整備された場所ということもあり、和泉地区と似たような状況にあったため大変参考となった。

このように和泉自治会も実行委員会の目的に賛同し共通認識をもつようになり、実施主体である実行委員会の事業推進に協力をする事となった。



「花桃の里」視察

1-②道端花いっぱい運動

越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクトにあわせて、地域を花でいっぱいにするを目的として実施した。各世帯や事業所にプランターを貸出し、普段の生活で行き来する家の前の

道路脇に花を咲かせることで、集落内の美化と癒しなどに繋げる。

2 穴馬民踊保存事業

旧上穴馬村、旧下穴馬村の時から歌い継がれた穴馬踊りや和泉の歌をまとめた冊子を作成。歴史と伝統を受け継ぎ、後世に一つでも歌い残していくために発行。

3 和泉地区地域づくり計画策定事業

人口減少や高齢化が進む中、和泉地区の将来を考え、地域資源を生かして、結の精神によって自立した地域を目指すために地域づくり計画を策定。

○事業実施にあたって

和泉地区は中京方面からの玄関口として、大野市さらには福井県にとっても最重要な地域であり、近い将来の中部縦貫自動車道の開通に伴うインターチェンジの完成などにより交通の拠点となる。



中部縦貫自動車道予定（赤線）

平成21年3月の大野東～和泉 IC 間の新規事業化に次いで、平成23年12月には和泉 IC～油坂峠間の新規事業化が決定するなど着々と開通に向け進展しているところである。

開通に際し、和泉地区が単なる通過ポイントとして埋没することなく、中京方面などから福井県を訪れた方が最初にインターチェンジをお

りて立ち寄っていただける「観光情報発信拠点」を創造することが重要だと考える。

そこから地域内外の交流が生まれ、地域住民の自発的な意欲・行動が促され、地域力・市民力が向上していくことが期待できる。

その「観光情報発信拠点」は和泉地区の自然豊かな風土にマッチした心満たされる場所であり、癒しや休息、おもてなしの優しい心が表現された場所でなければいけない。

産業と歴史・伝統などを組み合わせてストーリー化し、地域資源を生かした和泉地区ならではの「観光情報発信拠点」を創造し、福井に入るとき帰るとき必ず立ち寄りたくなる。そんなエリアの創造を目指す。

4、事業の成果

1-①越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

(1) 花桃の植樹

初年度は、平成22年5月29日(土)30日(日)の両日、同地区の九頭竜保養の里、九頭竜国民休養地、道の駅九頭竜周辺に約460本の「花桃の苗木」を植樹し、県内外より2日間で約1,000人の参加者が集まった。また和泉地区全体で花桃を楽しんで回れるような地域を目指し、前坂地区、下半原地区、大納地区などへも10本前後の植樹を行った。



植樹の説明を受ける参加者

2年目は平成23年5月28日(土)、和泉前坂家族旅行村において植樹イベントを開催し、297名の参加をいただき、約350本の苗木の植樹を行った。

このイベントでの植樹のほか実行委員会で川合地区、角野地区、大納地区などへ約150本の植樹を行った。

3年目の平成24年度は九頭竜国民休養地をメイン会場とし、そこから下半原地区と前坂地区の植樹場所へバスで移動し植樹を行った。256名の参加をいただき370本の植樹を行った。このほか大納、下山地区などへも130本の植樹を行い、3年間で1500本の植樹が終了した。

植樹した苗木の添え木には自分が植樹した木が分かるようにナンバープレートがついている。ここに自分の植えた花桃があるということから、再びこの地を訪れてみようと思う気持ちが生まれ、少しずつ愛着もわいてくるのではないだろうか。



植樹風景

実際に、植樹の後もその場所を訪れ、自分の植えた苗木の周りの草刈をする人や、和泉地区の新緑まつりや紅葉まつりに訪れた人が自分の植えた花桃を見て帰ることもあった。

(2) 花桃の育成管理

植樹後の育成管理も非常に大切であり、4年目の今年度は約1500本の雪囲い、追肥、薬剤散布、枝打ちなど実行委員会のメンバーやボランティアを募集するなどして随時行っている。

雪解け後の4月28日には、3カ年かけ植樹し、昨秋に雪囲いをした花桃の雪囲いの取り外し作業を行った。74名の参加があり豪雪にも負けず無事冬を越せた苗木に一安心し、更なる成長を願い追肥も行った。そして11月2日には70名の協力を得て、来たる冬の雪に備え苗木が雪で折れないよう雪囲い作業を行った。参加者らは専門家の指導を仰ぎ、竹と荒縄を使って雪囲いを設置した。今回で4年目ということで皆手際よく作業を進められていたが、特に荒縄で枝を束ねて縛る際の結び方である「男結び」を初めての参加者や子どもは教わりながら作業を行った。本数が多くかなり大変ではあったが、参加者らは一本も雪に負けて折れたりしないよう丁寧に作業を行い、将来この地域が花桃でいっぱいになり、多く方がこの地を訪れてもらえることに思いをはせていた。



雪囲い作業

作業のあとの交流会は、ステージでの楽器演奏やビンゴ大会などで楽しい時間を過ごし、また和泉の食材を生かした昼食も堪能した。今年度は「しし肉ソーセージ」「山菜料理」「まい茸弁当」など、参加者らは心地よい自然に触れな

がら併せて和泉の食材の魅力を存分に満喫していた。



和泉の食材を生かした昼食

参加者らはこのイベントを通して和泉地区に対する思いを深め、強く心に残る1日になったのではないかと感じている。これにより当地区の魅力が地区外にも発信され、大野市の新たな観光地の創造に手ごたえを感じた。

これらの作業を行うにあたっては、実行委員会のメンバーだけでは実施が困難であり、またこの管理を通じて地域の活性化に繋がっていくことを期待し、ボランティアの花桃管理グループ「花桃ガーディアンズ」を募集して行っている。

和泉地区の住民だけでなく、地区外より多くのボランティアを募集することで、多くの方に和泉地区を知ってもらい愛着を生む。さらに地元住民と触れ合う機会を創出することが大切であると考えた。

実際、ボランティアには和泉地区以外の参加者が多く、作業を通して交流が生まれていた。

これを機に地元住民の交友範囲も広がり、さらに外部の情報を得ることや地域外の人意見を聞く事で、今後の地域の発展また地域住民の意識改革に繋がってくるのではないかと感じとれた。

1-②道端花いっぱい運動

プランターの貸出しは、各世帯当たり2個までとし全体で100個を購入した。予定より貸出数が少なかったものの道端を花でいっぱいにして通勤・通学・通園者など行き来する人の癒しを与えて、地域一体となった花運動が進むよう役割を果たしている。

一般世帯 39件
事業所、施設 11件



道端に並ぶケイトウの花

2穴馬民謡保存事業

「穴馬の民謡集」を200部作成

和泉には歴史や伝統文化が数多く存在するが、人口減少や少子化などで伝統文化を伝承してく

ことが難しくなっている。しかしこれらを後世に残し伝えていくことが重要である。地区内の子どもや若年層が興味を持つようこの民謡集を活用して広くわかりやすく伝えた。

また、故郷を想い懐かしみ、訪れを期待して、和泉を離れた地区外の人にも冊子を紹介した。



3和泉地区地域づくり計画策定事業

平成24年7月から平成25年9月までに誰もが参加し話し合える「和泉で語ろう会」を9回開催。そのほか企画会議12回、自治会役員会・総会を随時開催し計画案を策定した。計画案策定後はその内容を周知するために、平成25年12月から平成26年1月まで集落説明会を7か所で実施した。



和泉で語ろう会

「和泉で語ろう会」では地域の課題、問題点

の洗い出しや魅力を再発見し、地域を見つめ直した。集落説明会では、自治会や地域の動きと方向性を示し、地域全体が一体となるよう共通認識を持つことができた。



集落説明会

5、今後の展望

今年度実施した3つの事業において、和泉地区地域づくり計画の策定については和泉地区の将来を決める重要な作業である。「ここに住み続けられるために」を基本的な考え・共通の思いとして策定し、自ら考え、行動する自立した地域を目指していくものである。今後は自治会に推進チームを設置し具体的な活動計画策定と実施できるものについては順次行動に移していくこととしている。

4年前から動き出している越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクトは、地区内外の多くの人の協力を得ながら進めており、地区住民が自発的に行動する見本となるものがある。今回の花桃とあわせて花をテーマにした道端花いっぱい運動の継続や穴馬の民謡集の発行などの歴史・伝統文化活動、その他多方向から推進していくことが重要で、それらの活動や資源を結び・組み合わせ・連携を図っていく。

平成17年の合併以降地区住民の間では、行政サービスの低下が懸念されている。これまで小さな自治体のため行政を身近に感じ頼りすぎている部分もあったと思うが、すぐに考え方を变えることは難しい。

この事業が行政に頼らず自主的に地域づくりに携わっていくという意識改革への転機になり、その結果、地域にリーダーを育て、人と人との繋がりや集い、結束力を高め、地域を牽引する大きな力へと変わっていく。すなわち地域力・市民力が向上していくものと確信している。結の故郷づくり交付金を有効活用してさらに地域づくりを推進していきたい。